

## 編集後記

去る5月22日、本特定領域の準備期から中心的役割を果たされ、その実現に数々の労を惜しまれなかった江島恵教東京大学教授が急逝された。3年前の晩秋、前から温めていた構想をお話しすると、そくざに強い共感を示され、その場で東大文学部の方々に電話連絡を取られた。評価委員として中根千枝、高崎直道両先生にご参加いただいたのも、江島教授の仲介に依っている。「文化横断的研究」という本特定領域のキーワードも提唱された。一昨年春、この領域を準備する科研費基盤研究(B)が発足して以来は、昨年5月の文部省ヒアリングをはじめ、折々に適切な方針をお示し下さった。ご余沢に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新年度より新たに公募研究が加わり、138名の研究者による特定領域研究は開始された。まだ形を成すに至っていない。皆さんの積極的参与によって、今は潜在している種々の可能性が次々と現実化されてゆくことを願っている。

今号の「研究ノート」は、昨年のシンポジウム講演者M. ヴィッツェル教授(Harvard大)に、本特定領域のロゴマーク(本誌第1号「編集後記」参照)、北斗七星をめぐる伝承を蒐めていただいた。インド神話では、印欧時代の伝承を受けて熊とも見られ、あるいはまた、毎夜北辰を廻り、天の水を汲み上げては地に注ぐ天の柄杓、その縁に天に昇った7仙人が坐(いま)す、ともされる。この星座に関しては、広範な地域に多様な伝承がありそうである。

本特定領域内のデータベース作成計画を纏め、科学研究費を申請する予定であるが、締め切りが迫っている。本誌掲載の要綱をご参照のうえ、申請代表の文部省統計数理研究所村上征勝教授まで早めにお申し込みいただきたい。

本誌第4号発行が、諸般の事情により予定より大幅に遅延したことをどうかご海容下さるようお願い申し上げます。

平成11年9月23日

中谷 英明